



第2回

Co-creation Meeting 開催レポート

変化と挑戦を力に、未来を共に創る

1月20日、室町三井ホールにて「第2回 Co-creationミーティング」を開催し、各委員会委員長・幹部・製薬協役員など83名が参集しました。今回の目的は、「産業ビジョン2035」の実現に向け、委員会・部会間の連携を強化し、共創を加速させることにあります。組織の枠を超えた対話を通じ、新たな連携の糸口を探る一日となりました。

2026年
1月20日(火)
@室町三井ホール
&カンファレンス



GROUP DISCUSSION 課題を「共創」で解決する、熱気あふれるグループディスカッション

次年度の実施計画に基づき、各委員会が抱えるテーマや課題を持ち寄り「グループディスカッション」を行いました。

Message

Topic 1 10の混成グループで「共創」の種を探る



会場は10のテーブルに分かれ、委員会横断のメンバーが着席しました。事前アンケートで共有された「自委員会が特に課題と考えるテーマ」をもとに、まずは各委員会が置かれている状況や背景を共有するところからスタート。議論の中心となった問いは、「誰と・どのテーマで共創できるか」。これま

で接点が薄かった委員会同士の組み合わせにおいても共創の可能性が見えはじめ、テーブル内の対話は自然と前のめりになっていきました。委員会ごとに見えていた個別の課題が、他委員会の視点を得ることで“組み合わせると解決できる”アイデアへと変わっていく場面が各所で訪れました。

Topic 3 確かな手ごたえと、次へのアクション



後半は各テーブルから議論の成果を共有。オブザーバーとして会場を回っていた会長・役員陣も、その熱量に耳を傾けました。実施後アンケートの結果からは、今回のディスカッションが委員会の枠を超えた協働の「次の一步」を大きく後押ししたことが明らかになっています。

参加者アンケート



が「共創の糸口・ヒントを見いだせた」と回答



が「グループディスカッションは、ビジョン実現・課題解決に向けて、委員会・部会横断の共創アイデア創出に貢献した」と回答



が「今後数カ月以内に、他委員会・他部会と連携した具体アクションを検討・実行できる」と回答



単なる意見交換にとどまらず、具体的なアクションへと繋がる実りある場となりました。

Topic 2 AI技術で議論を可視化



今回は製薬協の各部長がファシリテーターを務め、議論を円滑に進める工夫として、発言量や議論の活性度を計測できるAI議事録ツール「ハイラブル」を全卓に導入しました。会終了後にデータを分析したところ、議論の盛り上がりを示す波形が随所に確認され、活発で質の高い対話が各テーブルで展開されていたことが可視化されました。

注目の「共創」トピックス

Good Co-creation Stories 共有

会の冒頭では、先行して進んでいる協会内外の連携の好事例(Good Stories)が共有されました。宮柱会長が就任時に掲げたアクションプランの中から5つのトピックスについて発表が行われ、AMEDとの協定やグローバル規制調和など、具体的な成果が報告されました。



一筆入魂!「共創」書初めリレー

会場の一隅ではもう一つの「共創」が進行していました。「共創(全18画)」の文字を、各委員長がリレー形式で一画ずつ執筆。最後に宮柱会長が仕上げの一画を入れ、想いのこもった「書」が完成しました。



皆様がすでに『共創』を前向きに捉え、具体的なアクションを検討し始めてくださっていることに、私自身大きな気づきと刺激をいただきました。多様化する社会で、この熱量をさらに高めるため、AI活用などの「インフラ」整備を含め、委員会間共創を後押しするための支援を製薬協として強化していきます。しかし、最大の強みはやはり『人』です。会社や委員会の枠を超えて互いを知り、面白がる。そのポジティブなエネルギーこそが、業界の未来を切り拓く鍵になります。2026年、頼もしいリーダーの皆様と共に、ワクワクする未来を創っていきましょう!



宮柱 明日香
ASUKA MIYABASHIRA